



6月12日に開催しました「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動情報交換会」の様子をお知らせいたします。

令和8年度第1回廿日市市コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動情報交換会

6月12日（金）にコミュニティ・スクール及び地域学校協働活動情報交換会を開催しました。この会には、各学校運営協議会会長と小中学校職員（校長、教頭、主幹教諭又は教諭）の皆さんにお集まりいただき、これからの活動等について情報交換を行いました。はじめに、広島県教育委員会生涯学習課 社会教育監 半田光紀先生に「コミュニティ・スクール（以下、「CS」という。）と地域学校協働活動の一体的推進」というテーマで、ご講話をしていただきました。

研修Ⅰ 講話

1 はじめに

地域と学校の連携・協働がなぜ必要なのか、その背景には「学校を取り巻く問題の複雑化・困難化」といった課題とともに、「社会に開かれた教育課程」の実現といったミッションがあります。

なぜ今、「社会に開かれた教育課程」の実現が求められているのでしょうか。それは、社会の繋がりの中での学びは、子どもたちは自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つことができ、その実感は、変化の激しい社会において困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になります。そのため、社会と連携・協働した教育活動を充実させることが、ますます求められています。CSと地域学校協働活動の一体的な推進が「社会に開かれた教育課程」を実現につながります。

学校と地域の連携・協働を図る上で、学校運営協議会委員の皆さんは、会議や活動の中で児童・生徒や教職員の情報や秘密に触れる可能性があります。学校運営協議会委員は、特別職の地方公務員の身分を有していますので、学校や地域の活動で見たり聞いたりした秘密については漏らさないといった守秘義務を守っていただきますようお願いいたします。

また、学校運営協議会は、学校運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関であり、教育委員会が設置及び委員の任命を行うため、学校と対等な立場にあります。校長先生、いわば学校側は基本的な方針の承認を得る必要があるため、進行は委員の方がされるのが適切です。



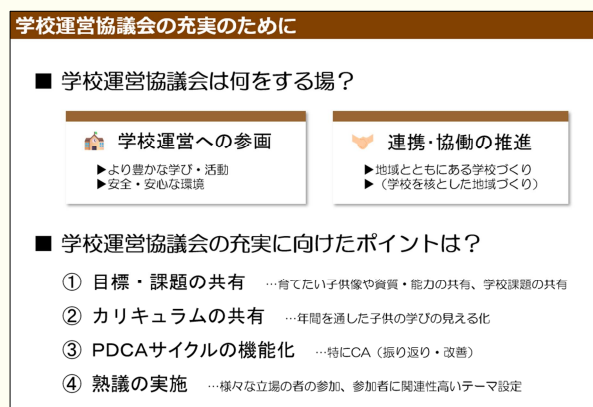
出典：文部科学省 コミュニティ・スクール関係課説明会 行政説明資料

学校からの説明や資料も専門用語を使うのではなく、わかりやすい言葉や説明をすることが大切です。学校運営協議会委員さんの承認は、「OK（わかりました）」ではなく「Let's(一緒にしましょう)」です。先ほど申しましたように委員の方には守秘義務があることを踏まえて、学校側が課題として捉えられていること（例えば、生徒指導上の課題等）を学校運営協議会で共有されると、解決に向かう事例もあります。そのためにも、学校と地域がパートナーの関係を築けるよう、日頃の連携を大事にしていってください。

2 CS、地域学校協働活動について

地域学校協働活動について、国立教育政策研究所の志々田先生がまとめられた資料で説明します。大切なのは「どのような子どもたちを育てるのか」「どんな教育を実現するのか」という目標を共有することです。目標を共有した上で、授業に入ったり、教室に入れない子のことを一緒に考えたり、関わったりすることが、図の左側の「学校で行う地域学校協働活動」です。右側が、地域の祭りや地域の伝統行事の継承、放課後子ども教室等の「地域で行う地域学校協働活動」です。

学校運営協議会は学校運営に参画する場です。学校の授業やその他の教育活動などを、より豊かにしていくよう一生懸命揉んだり、子どもたちの安全・安心な環境について検討したりするなど、学校づくりを行う場です。学校づくりのパートナーとして集まり、顔を合わせる回数が増えるほど、様々なことを本音で言えるようになるなど、連携・協働の推進を行います。



3 学校運営協議会の充実に向けて

学校運営協議会充実のポイントは、

- ①目標・課題の共有です。目標の共有は、よく行われていますが、課題を共有することも大事です。
- ②カリキュラムの共有です。子ども達が学校で1番長く過ごすのは授業です。そして子ども達を豊かに育むのは様々な体験です。学校は、「1年」が大事なサイクルになります。教育課程内に地域や企業が入るもの等を見える化し、共有することで見通しをもって取り組むことが可能になります。地域と学校が情報を共有することが大切です。
- ③PDCAサイクルの機能化です。昨年度、学校運営協議会の会長の皆様に調査をした結果、育てたい子ども像を共有している協議会の割合は98.2%、企画・立案も79.1%と高いですが、振り返り・改善・実践ができていない割合は45.2%と低いです。振り返りを行うことで次年度のブラッシュ

ユアアップや取組のそぎ落としも検討できます。さらに、校長先生方を対象としたアンケートでは、地域学校協働活動において、学校及び地域の目標達成・課題解決に繋がったという割合は45.6%です。熟議を行っている学校は66%、さらに熟議とPDCAを活用しているところは80%が、地域と学校の課題解決や目標達成に繋がっていると回答しています。地域と学校の連携協働を進めていく上で、大切なのは「PDCAサイクルを回すこと」と「熟議」です。

③PDCAサイクルの確立

■地域学校協働活動を学校及び地域の目標達成・課題解決につなげていく「カギ」

「地域学校協働活動において、学校及び地域の目標達成・課題解決につなげた」学校の割合



学校運営協議会等の運営体制の確立

県全体

45.6%

熟議を行っている学校の内、目標達成・課題解決につなげている学校の割合

66.2%

地域と連携・協働してPDCAを行っている学校の内、目標達成・課題解決につなげている学校の割合

62.8%

地域と連携・協働して熟議及びPDCAを行っている学校の内、目標達成・課題解決につなげている学校の割合

80.0%

地域学校協働活動において、学校及び地域の目標達成・課題解決につなげている学校

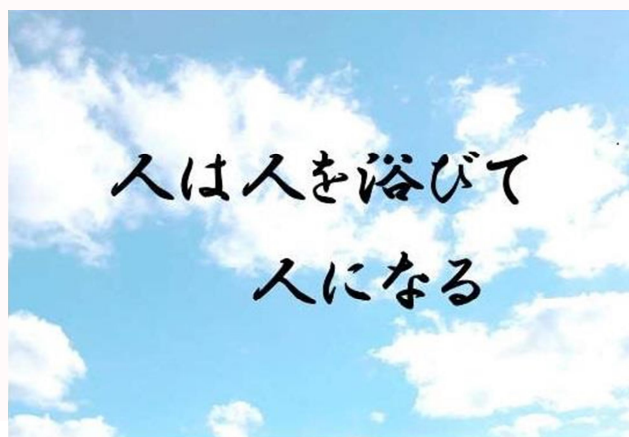
地域と共に熟議を行っている。

地域と目標等を共有し、連携・協働して計画(P)、実施(D)、評価(C)、改善(A)を行っている。

④熟議の実施についてお話しします。熟議は様々な立場の方の参加で行われることや、参加者にとって話に入っていくやすいテーマを設定することが大切です。

そこで、熟議のテーマ設定のポイントを4点お伝えします。①何かを具現化するため（何かを具現化するための熟議は熱も入ります。どう具現化していくか、熟議で終わらせないのがポイントです。）②課題を解決するため（学校や地域の課題を解決する際にもってこいです。）③何かを変えたい時に諮るため、④何かを共有するため、以上4点が、熟議のテーマを探すポイントにもなります。引き続き、より良い学校教育を通じて、よりよい社会を創ることを目指し、御協力いただきますようお願いいたします。

「人は人を浴びて人になる」といいます。私も出会った方につくっていただきました。是非、目の前の子ども達にも、いろいろな人に出会わせていただきたいと思います。出会った人の生き方で、その子ども達の生き方がまた変わってきますし、選択肢が広がっていきます。教職員は、異動があるので、しっかり風を吹かして去り、地域の方は、土の人として、子ども達を育てていく。そういう、学校と地域の連携・協働が進むよう、よろしくお願いいたします。



研修Ⅱ 演習・協議

講話を受けて、「熟議を生かすCSへの推進に向けて」というテーマで、演習・協議を行いました。

廿日市市教育委員会では今年度は、熟議を生かすコミュニティ・スクールの推進を重点目標の一つとしています。熟議のあり方や進め方について説明した後にグループで協議の場を設けました。

1 熟議のあり方と進め方

熟議を活性化させ、活動へつなげるためには、「自分たちの声が子どもの未来につながる！」という意識を持ち、地域の強みを生かして、わくわくしながら話し合う場にしていけることも目標です。熟議がエンジンになり、PDCAサイクルを回して、しっかりとした活動や取組を行っていくことが大切です。熟議を活性化するための工夫として4つの視点をあげます。

- ①事前の準備と情報共有…会長と校長等との打合せを行い、思いの共有が大切
- ②安心・安全な場づくりと体制…全員が対等に意見を出す、意見を否定しない、ルールを共有する
- ③進行・手法の工夫…話していることの見える化、ユニークで突飛な意見もOK、
- ④実践と継続への工夫…決定事項の明確化、結果のフィードバック、マネジメントの役割分担

以上のようなことを意識しながら準備を進めていただきたいと思います。そして、多様な視点からということで、児童・生徒の熟議への参加が本市でも行われるようになってきました。今後、大学生や若者等の視点を取り入れることも有効です。その場合には、子どもたちに参加の必然性や意義をしっかりと伝え、自分なりの意見が持てるようにしておくことも大切になります。

本年度は、PDCAサイクルのCheck(評価)からAction(改善)への取組を重点的に進めていただきます。熟議や学校運営協議会で、誰が、いつまでに、何ができそうか明確にしていくことが大切です。そして、熟議で出た意見がどのように具現化されたか、そのあとの成果や変容をフィードバックしていくことが大切です。

「みんなの未来をみんなで創る」子どもたちの姿を描いて、地域や学校が抱える課題を共有して、熟議のテーマを考えていきます。

ステップ1 「子どもへの眼差し」をそろえる

ステップ2 強みと弱みの共有

ステップ3 「これなら一緒にできる」を発見！

ステップ4 テーマの言語化と共有

の流れで、どんな未来を一緒に創りたいか、グループで協議を行いました。

	地域	学校
強み	・児童数減少が激しい(10人減)	・少人数指導 ・小中連携 ・地域の方へのあいさつ
弱み	・児童数減少が激しい ・地域の高齢化 ・地域行事への参加減	・参観日等 行けなくなった(コロナ禍) ・忙しい

※ステップ3: 「これなら一緒にできる」を発見！
※ステップ4: テーマの言語化と共有
テーマ: みんなで清掃活動、イベント参加

2 演習・協議の参加者の感想(1グループの発表)

地域と学校の連携協働を行うためには、小学校の段階で地域の方との関係づくりや中学校につながるカリキュラムづくりを中学校区単位で行うことが必要なのではないか。地域の方が、学校の活動に入っていただくが、学校としては申し訳ないと思っていたが、地域の方からそもそもいやだったら行かないよと言っていた。お互いが満足できる win-win な関係を持てることが継続的で発展的な学びになっていくと思う。そして、一番は子ども達が主体的に「自分からこの地域のメンバー」としてやっていくためには、ということを考えていくことが大切だと思います。

廿日市市教育委員会生涯学習課

〒738-8501 廿日市市下平良一丁目 11 番 1 号

TEL(0829)30-9203 FAX(0829)32-5163



市ホームページ